

日交研シリーズ A-697

平成 28 年度自主研究

「観光地への公共交通アクセスの変遷と役割、効果に関する調査研究」

刊行：2017 年 12 月

## 観光地への公共交通アクセスの変遷と役割、効果に関する調査研究

### Transition, role and effect of public transport access to tourist spots

主査：青木 亮（東京経済大学教授）

#### 要 旨

本報告書では、2016 年度の日本交通政策研究会自主研究「観光地への公共交通アクセスの変遷と役割、効果に関する調査研究」の研究成果を取りまとめた。2014(平成 26)年 6 月、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界文化遺産に登録され、製糸場周辺の観光地や群馬県内の有名温泉地を多くの観光客が訪れるようになった。その効果を波及させていくことが課題であるが、十分な成果につながっていない。要因のひとつに、群馬県の交通環境、とりわけ公共交通機関による移動の不便さが指摘出来る。路線バスは生活路線としての色彩が強く、観光客の移動や周遊に十分な配慮がなされていない。また従来の研究は自治体による住民サービスやバス利用の活性化、生活路線維持などの観点から論じられる傾向にあった。本研究では、交通事業者による観光開発やバス路線の盛衰過程を分析するとともに、地域交通と観光業の関わり、影響、効果を中心に論じた。

研究成果は、報告書の 2 章から 7 章にまとめられている。第 2 章「観光地における路線バスの意義・役割とその変遷」では、主要交通機関の変遷と観光地への利用を軸に、交通と観光地との関わり、社会的変遷過程を 5 つの時期に区分して論じた。続く第 3 章「世界遺産を活用した観光振興と公共交通アクセスの諸問題に関する考察」では、世界文化遺産に登録された「富岡製糸場」（群馬県富岡市）、「平泉の文化遺産」（岩手県西磐井郡平泉町）、「橋野鉄鉱山」（岩手県釜石市）、「韮山反射炉」（静岡県伊豆の国市）、および山口県萩市の各構成資産やその所在地域を事例として、世界遺産を活用した観光振興と、公共交通アクセスの現状と課題を考察した。第 4 章「西多摩エリアの観光と公共交通」では、西多摩エリアにおける公共交通の利用者増加と観光の関わり合いを検討した。第 5 章「公共交通空白地有償運送における ICT 活用—京丹後市「ささえ合い交通」の事例—」では、京丹後市における上限 200 円バスの 10 年間の展開と成果、およびタクシー事業者撤退後の交通施策として「デマンドバス」、「EV 乗合タクシー」、「ささえ合い交通」を取り上げた。第 6 章「三次市による広島空港連絡バスの開設と利用状況」では、観光客誘致も狙って開設されたバス路線のケース・スタディとして、三次市による広島空港連絡バスを取り上げ、開設された経緯や利用者アンケート調査の結果を紹介した。第 7 章「住民組織を活用した移動手段の確保に向けた取り組み—北海道函館市・陣川あさひ町会を事例に—」では、交通空白地域の解消に向けた取り組みとして住民組織が主導してバス運行を行った北海道函館市・陣川あさひ町会の事例研究から、住民組織と交通事業者、行政の 3 者における運営面の役割分担を考察した。

キーワード：観光地への公共交通アクセス、世界遺産、西多摩、京丹後市、過疎地における公共交通、三次市、空港連絡バス、函館市、自治会による乗合バス運行

Keyword : Public Transport Access to Tourist Spots, A World Heritage, Nishi-tama, Kyotango-City, Public Transport in Rural Areas, Miyoshi-City, Airport Shuttle Bus, Hakodate-City, Local Bus Services by a Residents Association